

## 人材育成支援事業の最近の活動状況

Current Activities of Human Capacity Building Support by ISCN/JAEA

\*鈴木 美寿<sup>1</sup>, 野呂 尚子<sup>1</sup>, 直井 洋介<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 日本原子力研究開発機構 核不拡散・核セキュリティ総合支援センター

2011 年度以降、約 7 年間に亘って活動して来ているアジア地域の国々等を対象とした核不拡散及び核セキュリティ分野の人材育成支援事業について、今までの成果について取り纏めるとともに、最近の状況、課題等について報告する。

**キーワード：**核不拡散・核セキュリティ，人材育成，バーチャルリアリティ，核物質防護実習フィールド

### 1. 緒言

核不拡散・核セキュリティ総合支援センター(Integrated Support Center for Nuclear Nonproliferation and Nuclear Security: ISCN)は、第 1 回核セキュリティサミットにおける日本政府の声明を起源としてアジア初の核不拡散・核セキュリティ地域拠点として設立され 2011 年より活動を開始して以降、アジア地域の国々の本分野における人材育成に貢献しており、アジア各国に加え日米両政府より高い評価を受けている。本発表では、ISCN の人材育成支援事業の最近の状況等について取り纏め報告する。

### 2. 人材育成支援事業の特徴

#### 2-1. アジア諸国への貢献

ISCN の人材育成支援の目的は、アジア地域で原子力技術の発電又は産業利用を検討している国々に対して、核不拡散（保障措置）及び核セキュリティ分野における国際条約の批准、国内規制、施策実施等に携わる人材の育成を支援することにある。今までに、82 の国及び 3 つの国際機関より 150 のトレーニングコースに合計 3,922 名の参加者を得ており、上記の人材育成支援に重きを置いた本事業は、我が国の経験知見をアジア諸国へ紹介提供することで、当該地域の核不拡散・核セキュリティ分野の意識や体制の向上に貢献している。

#### 2-2. バーチャルリアリティ及び核物質防護実習フィールド

トレーニングを効果的に実施するために、講義による座学やグループ討議以外に、バーチャルリアリティ技術を用いて、核物質防護に係る機微情報に抵触しない範囲で原子力発電所の施設内部について参加者に視覚で体験して貰う設備、及び核物質防護対策で用いる侵入防止や出入り管理等の設備機器等の原理や特徴を、実際に手で触れて体験して貰うことが出来る施設（核物質防護実習フィールド）を整備して運用して来っており、記憶に残る強い印象を与えることが出来ることから参加者より高い評価を得ている。

#### 2-3. 国際協力

国際原子力機関(IAEA)を始めとする、米国エネルギー省国家核安全保障局(DOE/NNSA)及び欧州委員会共同研究センター(EC/JRC)からの国際協力を得て、また、アジア地域の本分野の協力枠組み等にも参加して、当該地域の動向・関心等の把握に努めている。特に、核セキュリティサミットの後に、我が国と同様に韓国及び中国に人材育成トレーニングセンター(Center of Excellence: COE)が開所し、3 か国間で連携協力する活動を展開中であり、IAEA が主導する世界的な核セキュリティトレーニングセンターのネットワーク会議においても、地域 COE 協力の模範との評価を受けている。

### 3. 課題等

核不拡散（保障措置）分野のトレーニングにおいて機構の保有する資産を有効活用したコースの提供、核セキュリティ分野で多様なニーズに適確に対応できる新規コース開発及びインストラクターの養成等。

---

\*Mitsutoshi Suzuki<sup>1</sup>, Naoko Noro<sup>1</sup> and Yosuke Naoi<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Japan Atomic Energy Agency, Integrated Support Center for Nuclear Nonproliferation and Nuclear Security